Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会会報

第１８号　２００７年６月　ネパールの視覚障害者を支える会（NBSA）

NBSA：http://nbsa.sakura.ne.jp/

主内容：チャリティーコンサートと現地活動報告/総会報告/活動報告/ネパールの働く仲間/都市の貧困層/木下航志チャリティコンサート in Nepal/事務局だより

さわやかな春の女声コーラスと澄みきったソプラノの歌声が、遥かなヒマラヤ山脈を越えるとき、かの地で光を待つ者に夢と希望を運ぶことでしょう。

NBSAチャリティコンサートと現地活動報告

4 月 28 日 かごしま県民交流センター　中ホールにて開催

〔現地活動報告〕

ネパールのスタッフの紹介から始まって、生活自立訓練会でのアイロンかけや髭剃り、靴磨きなどの様子がスクリーンに映し出されると「あっ、こんなことも教えてるの！」街中の雑然とした写真を見ては「これでは歩くのも大変そう。」「ネパールってこんな人たちが住んでるの？」など、会場に集まった方々からの感想を聞きました。

（講師　カトマンドゥ駐在　渥美資子）

〔チャリティコンサート〕

「女声合唱いしき」、「コール吉野」ともに昭和 57 年から活動を続けているコーラスグループ。さすがにどちらも長年のキャリアの持ち主とあって、美しい歌声と素晴らしいハーモニーに全員うっとり。グループには 80 歳を超える方々もいると言う紹介を聞きびっくりしました。最後は八木まゆみさんの楽しいトークをまじえた、澄みきったソプラノの歌声に会場は拍手喝さいでした。

せまい会場に200人を超える方々にお集まり頂き、本当に有難うございました。ＮＢＳＡへの皆様のあたたかいご支援に感謝いたします。

（写真左上　女声合唱いしき
下　コール吉野　）

（写真撮影と本誌への掲載はモデルの許可を得ています）

２００７年度 NBSA 総会

ネパールの視覚障害者を支える会（NBSA）2007 年度総会は、平成 19 年 4 月 28 日、鹿児島市かごしま市民福祉プラザ ボランティアセンターにおいて開催された。会議の定足状況は、正会員 62 名、定足数 32 名に対し、出席者 10 名、委任状提出者 34 名の計 44 名で、定足数に達し、総会は成立した。

承認、了承等された議案は、次のとおりである。

議題：１　2006 年度事業報告と決算報告

事務局活動報告概略

2006 年 4 月　鹿児島市ボランティアセンターにおいて総会・講演会開催。
7 月　秋のスタディー･ツアー募集（9 月末中止決定）。
9 月　カセットテープ高速ダビング機購入のための募金開始。
10 月　同上募金終了、ダビング機を購入。
2007 年度チャリティーコンサート準備開始。
11 月　ダビング機をネパールへ運搬。
12 月　鹿児島県内国際交流団体意見交換会に出席。
2007 年 1 月　JICA 九州国際センター主催「一緒に語ろう！　国際協力団体勉強会」に出席。

現地（ネパール）活動報告概略

2006 年 6 月　カセットテープ・ライブラリーのコンピューター化開始
8 月　音声コンピューター編集講習会
視覚障がい児童の親への啓発セミナーと子どもの日クイズ大会(ネパールガンジ)
9 月　子どもの日クイズ大会　（カトマンドゥ盆地内対校試合）
11 月　ヒアリング（聴聞会）カセットテープ・ライブラリーの利用者と朗読、編集ボランティアを交えたオープン・ディスカッション開催
12 月　国際ボランティアデーにちなんだボランティア感謝デー　国際障がい者デーのデモ行進に参加
2007 年 1 月　視覚障がい児童の親への啓発セミナー　（ビルガンジ）
ウォークマンの寄贈式と茶話会
第 1 回生活自立訓練会、日常の作業　（サノティミ、男子学生対象）
2 月　第 2 回生活自立訓練会、裁縫と調理　（サノティミ、男子学生対象）
その他：　2006 年 11 月 15 日　ダビング機の到着
2007 年 1 月 16 日　ライオンズクラブ寄贈によるウォークマンの配布

事業の部

2006 年度は NBSA 設立以来、ネパールの視覚障がい者に最大の貢献をした年であった。2005 年に開始した「2000 人のネパールの視覚障がい者に白杖を贈ろう！」プロジェクトが終了し、多くの視覚障がい者が恩恵を受けた。

これは日本，台湾，ネパール３国のロータリークラブの援助の賜物であり、さらに今年からライオンズクラブが、ウォークマン寄贈プロジェクトを開始した。これらは日本の民間団体による国際貢献がネパールにも目がいった証でもあり、歓迎すべき事業であった。

なお、白杖配布事業は経費が掛からなかったが、白杖配布希望者がまだまだ多いことから、NBSA 本部と話し合って、予備費から 200 本を３月中に製作し、2007 年度当初から追加配布を可能にした。

定例活動の部

2006年度現地活動の最大の特徴は、定例活動を定着させたことにある。これまで、ネパールにおいてNBSAはスポット的なイベントなどを行う団体というイメージが強かったが、他の団体が行わない、たゆまぬサービスを提供する視覚障がい者の福祉コミュニティー・センターといった感じのイメージが定着しつつある。

事務所の活動時間：月曜日～金曜日　（月に２度ほど土曜日もしくは日曜日も活動）
午前９時～午後４時

年度活動計画と実績

① カセットテープマガジン発行：　4回の発行に留まった。録音と朗読技術の向上に力を入れ、トレーニングや機材も充実させたが、機械操作の未熟さで失敗が多かった。
② トーキングブック（小説の音訳）：　35冊（ﾃｰﾌﾟ192本）しか実施できなかった。
③ 点字ニュース発行：　障がい者団体のニュース、NBSAの活動、一般的なニュースを主な内容にして、5回発行出来たが、ページ数は昨年度と同様に平均24ページとなった。
④ ウォークマンと点字本の貸し出しはほぼ順調
⑤ 古着の随時回収と配送：　11月、12月、1月　の3回、主に南ネパール・タライ地方５箇所に使用済み衣類を配布した。
⑥ NBSAネット・ニュース（日本向け）：　計画より１回多く11回配信。
⑦ 会報誌：　予定通りに3回発行・送付
⑧ 会員向け暑中見舞いの発送：　8月にカトマンドゥの郵便局で発送したにもかかわらず、会員には届いていないようです。

上記①②は評判のよい活動であるが、２００６年４月と５月のネパールの政変、水不足による発電量の不足の影響で目標の部数を作成できなかった。

定例活動　その他

●ボランティアの定着と専門性が以前より向上した。
●事務所への訪問者が急増した。

【現地総括】2006年4月と5月のネパールの政変及び夏季の異常少雨による水不足の影響で停電が頻発し、カセットテープ・ライブラリーの作成、隔月点字マガジンの刊行が当初の計画を著しく下回ったため、大きな差が生じた。交通費やParents AW、他事業費が予算を超えたのは、ガソリン代高騰の影響が著しい。

他、事務所の利用者の伸びは順調であるにも関らず、カセットテープ事業においては、上記以外の原因のほか、役員以下、編集者、作業管理者の怠慢及び熱意が欠けていた。そのため定例活動部門においては、事務所賃貸と給与を除き、2005年度並みの出費に留まった。尚、点字ニュースの支出が少なかった理由は、印刷の技術が向上したため余分なテスト用紙の購入が減少した。（以前は発行部数と同数のロスがあった）

2006年度決算報告（次ページ表）

【監査結果】中山須磨子会計監査役に監査を依頼した結果、2007年4月6日、決算書は適正であることが認められました。

議題：２　2007年度事業計画と予算案

事務局事業（活動）計画

・ 広報活動の充実・ 鹿児島県内国際交流団体との連絡・交流の促進
・ 組織改革の準備など

2006 年度決算報告書

現地(ネパール)事業計画

定例活動の部

● カセットテープ・ライブラリー

① 目標作成部数：４０冊 （月間ニューズ、長編小説と大学生向け教材を含む）

② カトマンドゥ市内のオールド・バスパークにステーションを開設し、貸し出しと返却の便宜を図る。 ③朗読や編集の向上 ④ユーザーの声を聞く聴聞会の開催

⑤録音室の改善

● 点字マガジン

① 目標作成部数：６冊（隔月） ②内容の検討 ③地方への発送

● その他

① 白杖の配布 ②ウォークマンと点字本の貸し出し ③古着の随時回収と配送

④「ＮＢＳＡネット・ニュース」１１回配信 ⑤「ＮＢＳＡ会報」３回送付

⑥会員向け残暑見舞いの発送 １回

事業の部 (項目・日程予定・場所未定)

● ５月 視覚障がい児童の親のネットワーク・カトマンドゥ会議

● ８月 視覚障がい児童の親への啓発セミナー （クイズ大会併用、地方未定）

● ９月 こどもの日クイズ大会 （カトマンドゥ盆地内対校戦）

● 11 月　生活自立訓練会
● 12 月　国際障がい者デーに参加
● 12 月　国際ボランティアデー・感謝祭　レクレーション
● 生活自立訓練の小冊子と NBSA ネパール語の作成と配布

注釈：本年度は政変後初の総選挙にあたり、各所で騒乱が予想されるため事業日程や場所の設定が不確実である。

特別事業の部

本項目は、前年度末（2007 年 3 月）ネパール現地において活動するために条件付（使途限定）で頂いた寄付金 30 万円の使用計画に基づくもので、白杖の製作･配布（年間）、ネパール語 NBSA パンフレットの制作（年内）、生活自立訓練パンフレット作成（年内）及び録音室改造（年内、除湿機又はエアコンの設置）で、予算案に計上。

2007 年度予算書

NBSA2007 年度予算書

総会・チャリティーコンサート参加の会員

議題：３　その他

木下　航志　ネパールでのコンサートに関して

事務局および渥美副会長より、木下 航志（17 歳、盲目の音楽家。詳細はホームページ http://www.kishitakohshi.com/ ）のネパールでのコンサート計画に関して説明があり、実施が確定した場合は NBSA 現地活動計画に組み入れることが承認された。

以上

活動報告

定例のカセットテープ・ライフラリーや点字マガジンの発送のほか、こんな活動もしました。

●盛況だったボランティア・ミーティング　－　２００７年６月３日

昨年、朗読ボランティアと利用者の聴聞会を開催しましたが、今回はボランティア自身の提案。新旧のボランティアの自己紹介や、自分の仕事の見直しをしたいので、場所を提供してほしいという申し出がありました。これまでボランティアを交えた会合は、NBSA の企画だったのでただただ驚き。他の障がい者団体のボランティアでもこのような結束はありません。事務局長のヤダブが、NBSA はネパールのボランティア活動に新しい歴史を刻んだ、と冒頭でかなり大げさな挨拶した後はすべてボランティアにおまかせ。事務所に集まったボランティアは約２０名。自由討論や雑談に花が咲きました。さらにネパール暦の毎月最終日曜日に、ボランティアどうしの集いを、NBSA 事務所で開催することに決めました。

●生活自立訓練会　今度は女の子がメイクに挑戦　－　２００７年６月５日

口をあーんと大きく開けて。。。

NBSA の生活自立訓練会は男子学生ばっかり！女の子向けはないの！と鋭い指摘を受けました。女子寮に住む皆さんは、なんでも上手にできるでしょう。あと何を習いたいの？お化粧はどう？と聞くと、キャーッ、それいい！という、すさまじい声が上がりました。絶対習いたい、私もお化粧したいと前から思っていたと、さすが女の子、そろそろ身だしなみが気になる年頃なのですね。そこで、プロの美容師さんにボランティアで講師を依頼し、事務所で半日講習会を開きました。カトマンドゥ市内の女子寮に住む盲学生ほぼ全員が参加し、華やかにそしてかなりにぎやかに講習会が終了しました。

ネパールの働く仲間　**教育相談員　バスデ・アディカリさんと５本の指　（２６歳）**

バスデ・アディカリさんは２年前から、UNDP（国連開発計画）の現地スタッフとして教育相談を行っている。勤務先はチベットへ続くシンドルパルチョーク郡。カトマンドゥから西に向かって、日本の援助で敷設された立派なハイウェイが走っているが、彼の赴任地はかなり奥に入った田舎の村。「着任したての頃、村には電気がなくラジオニュースが聞けないので、自分ひとりが世界から切り離された気がした。しかし村全体が貧しいのに自分だけよい思いはできない、と自分に言い聞かせてきた。それに村の生活は食料に困ることがないのです」と語った。バスデさん自身は視覚障がい者ですが、障がい児に限らず村の子どもすべての教育相談やカリキュラム作成に取り組んでいる。バスデさんは多弁ではないが、穏やで説得力のある話術を心得ている。「たとえば、障がいのない男の子３人は学校へ通わせ、障がいのある女の子ふたりは学校へ行かせない家庭があるとする。あなたはこの親にどんな話をしますか」と尋ねた。「お父さん、あなたには指が５本ありますね。うち２本を事故で失ったらさぞ辛いし、寂しい気がするでしょう。それがあなたのお子さんなのですよ。私をご覧なさい、生まれつき見えなくても、頑張って学校へ行けば仕事に就けるのですよ」と相手の心を開かせ、ユーモラスに話すそうだ。（写真はバスデ・アディカリさん(左)と高校生の弟さん）

都市の貧困層を考える

NBSA カトマンドゥ事務所の隣に大きな一軒屋があります。そこには、田舎から出てきた年の頃 12 歳～14 歳ころの少年がふたり働いています。どうやら住み込みで家事手伝をしているようです。朝は早くから庭に水を打ち、荒い竹箒で掃いたりする音が聞こえます。夜は 9 時を過ぎ、家人の食卓を片付けた後「兄ちゃん、ごはん食べよう」という声が聞こえてきます。それと共によく耳にするのは、まだ声変わりしていない幼い歌声。寒い朝も、大雨が降る夜も彼らの歌声は途切れません。歌は貧しき者の力、あの子達はつらい時だからこそ、身を震わせて力一杯叫んでいるのでしょうか。

本日は日本の NGO 団体「シャプラニール」ネパール事務所駐在の藤崎文子さんに、カトマンドゥの貧困層の状況についてお話を聞きしました。

問：世界中どの国にも貧困家庭というのがありますが、カトマンドゥ独特の現象とは？
答：まず初めに都市と地方の貧困の質の違いを述べましょう。田舎の貧困とは、水や電気がない、電話や病院がないなどインフラの不足による生活上の苦労が主です。しかし、村には独特の共同体があるので、何とか食べていける場合もあります。ところが十数年に及んだ紛争を嫌って、また教育や就労の機会の少ない村から、都市に追われるように出て行く人々もいます。カトマンドゥにはそういう貧困層が多くいます。村では、物々交換などで何とか食いつなげることができますが、都市ではすべての物資は現金で購入せねばなりません。下町の狭いアパートに、大勢の家族がひしめき合って住んでいる様は、悲惨をきわめています。

問：そのような人々は全員、家族ぐるみで都市に移住するのですか？
答：そうとも限りません。ネパールの場合、子供が巻き込まれてしまうケースが多いのです。どういうことかと言えば、親が知り合いを頼って子どもを働きに出すというケースです。ネパールも多少は教育が普及してきたので、まるで未就学という子供は少なくなりつつあると思うのですが、大きくなってから自分より小さな子どもたちと机を並べて勉強したいという人などめったにいません。多くの人は、小学校の２，３年が最終学歴になるのです。そんな状況の中で、子供が現金収入を得るには、物乞いなるか、自分で稼ぐか、日雇いになるしか活路がないでしょう。田舎の生活に幻滅し、都市に憧れて自分の意思で飛び出してくる子供もいますが、停戦前後、村に来たマオイストに先生が目の前で殺され、都市の方が安全だと思って出てきた家族や子供もいます。

問：では、子供たちがしている仕事を教えてください？
答：こうした子供たちの特徴は、流動的に職を変えることです。物乞い→クズ拾い→乗り合い三輪車へとステップアップする子供と、道を誤って盗みなどを働くようになる場合も残念ながらあります。レストランやホテルでの下働きをする子供の労働条件は過度に苛酷で、朝の６～７時から夜の９～１０時まで、毎日１６時間くらい働いている場合もあります。月給は、千ルピー（日本円２千円弱）位です。２～３ヶ月に一度親が給料を取りにくるため、自分がいくら稼いでいるか知らなかった子供の話を聞いたときは、本当に胸が痛みました。

問：最後にシャプラニールは都市の貧困層や児童労働者にどのような支援をしているのですか？
答：カトマンドゥ在住の女性をターゲットに自活支援や識字教育を行っています。児童労働者へは、基本的な読み書きを教たり、技術訓練の機会の提供の他、啓蒙活動、奨学金の支給などです。そうそう、最近の BBC のウブサイトで NGO の援助で義務教育を終え、バイトでタクシーの運転手をしながら、上級の学校へ通っている青年がいることを知りうれしかったです。

（本日はありがとうございました）

** *シャプラニール＝市民による海外協力の会の活動：本部東京。３５年前にバングラデシュとインドの支援活動を開始。９４年にネパール事務所を開設。ネパールにおける活動の他、現地に適応した労働条件と賃金を元に、途上国と搾取のない公正な取引（フェアトレード）など、市民による海外協力を行っている。
Website http://shaplaneer.org/

盲目の音楽家 木下航志(KOHSHI KISHITA)チャリティコンサート in Nepal

木下航志君にはじめて出会ったのは、2004年にNHKで放送された「響け僕の歌　木下航志14歳の旅立ち」という1時間半の番組でした。そのとき、未熟児網膜症で全く光を失ってしまった一少年の記録というよりも、光り輝く何かを彼の中に見つけ、どんな少年なのだろう。「一度会ってみたい」と思うようになりました。2005年10月に九州限定シングルＣＤ「通り雨」の発売に際して行なわれたライヴで木下君に会い、今度は彼のライヴを「ネパールの視覚障がい者にも聞いてもらいたいなー」、それと同時に「木下君の感性はネパールで何をどのように掴み取って、彼は音楽の中でそれをどのように再生するのだろう」と考えてしまいました。そのメッセージを伝え帰路についたことを思い出します。彼は今高校3年生で、夏休みを利用しスケジュールの合間を縫ってネパールでのコンサートを実現することが出来るようになりました。コンサートの予定日は8月21日、このコンサートの実施にあたっては、現地のＮＢＳＡとサノティミキャンパスに通う視覚障がい者の大学生も実行委員として参加してくれる事になっています。(上田佳代子　記)

木下航志　PROFILE

1996　鹿児島盲学校入学　翌年より鹿児島にてストリートライヴをスタート　1999～2000年当時10歳にして、NHK「みんな生きている・かがやくメロディー」ほか、NHKドキュメント番組にて紹介される
2002　13歳のこの年、支援者の方々の協力により初のNYライヴが実現、本場ゴスペル隊と競演
2004　NHK総合にて「響け僕の歌　木下航志14歳の旅立ち」が放送され大反響を得る(7月11日PM8:00よりNHK・BSハイビジョンで再放送の予定)　アテネパラリンッピク2004NHKテーマソング「Challenger」を作曲
2005　バンド編成にて初のホールクラスのライヴを行なう　2度目のNYライヴ　愛・地球博EXPOドームにてジャパンウィークにライヴ参加　九州限定シングルＣＤ「通り雨」をリリース
2006　待望のメジャーデビューアルバム「絆」をリリース　全国各地でライヴを行なう
2007　ニューアルバム「Voice」をリリース　同タイトルの初書籍「Voice」を小学館より発売
木下航志オフィシャルサイト　http://www.kishitakohshi.com/

事務局だより

2007年度会費納入のお願い

4月1日よりNBSA 会計年度2007年が始まりましたので、会員の皆様方に会費の振込用紙を同封させていただきました。会費納入後に会報を受け取った方はご容赦ください。運営費のほとんどが、皆様方個々の会費によるものです。よろしくお願い致します。

Nepal Blind Support Association (NBSA)
Yoriko Atsumi　P.O.Box: 8974 PCN-111 Kathmandu, Nepal
Tel:977-1-4425-709　E-mail: yorikonepal@hotmail.com

《日本の事務局》
〒890-0064　鹿児島市鴨池新町27-1-1108 上田佳代子
Tel&Fax：099-258-6685　E-mail：office@nbsa.sakura.ne.jp
NBSA HP ： http://nbsa.sakura.ne.jp/

維持会費：個人会員年間6,000円　/ 法人会員年間15,000円

振込先　：郵便振替　01790-7-74222（ネパールの視覚障害者を支える会）